



# ～よみがえる グリーンライン～

～拾うほど増えるゴミとの先の見えない格闘～



グリーンラインを愛する会  
理事長 丸山 孝志

何処から手を付ければよいのか途方に暮れたのですが、それでも始めてしまった以上、何もない訳には行きません。「とりあえずできるところから始めよう。」という事になって、毎月1回のペースで作業のしやすい沿線の駐車場のゴミ拾いから始めてみました。

1トントラックに2回分のゴミがありました。それでもやった感はありました。「やればできるじゃん。きれいになったね。」みんなで喜びました。

しかし、1か月後には同じ場所に前と同じくらいのゴミの山が出来てきました。むなしい思いを抱えてみんな黙ってゴミをトラックに積みました。

その翌月も、またその翌月も同じでした。

「いくら拾ってもきりがない。こんな無駄な事をやってもしょうがない。」諦めて脱落する人が出始めました。そんな中で、さらにみんなのやる気を削ぐようなことが次々に起こりました。

道路わきの斜面には冷蔵庫やテレビやエアコンなどのいわゆる「リサイクル家電」がたくさん混じっていました。福山市の施設に持ち込むと「これは受け取れん。」と拒絶されました。「どうして？」と聞くと「これは持ち主がリサイクル料金を払って処分するものだからここでは受け取れない。」と言われました。「でも、これは不法投棄で、我々は不法投棄のゴミを回収してここに持ってきたのに。」と言っても頑として受け取ってくれません。「不法投棄のゴミなのに回収した我々がお金を出して処分しなければならないのですか？」と聞くと「いやなら元の場所に戻しておけば良い。」と言われました。

激高したメンバーが市役所にトラックを乗り付け、玄関にテレビや冷蔵庫を降ろし、咎められると「不法投棄のゴミは回収する者が金を出して処分するんだろうが、ワシらはここに置くから福山市が回収しろ。」と叫びました。私は「すぐに市役所に来い！」と電話で呼び出され、平身低頭

で謝りました。

納得できないメンバーをなだめすかし、市の担当者と善後策を協議し、何とか福山市に受け入れてもらえるようになりました。

しかし今度は耳を疑うような噂が聞こえてきました。新聞で「福山グリーンラインでボランティアが不法投棄のゴミの回収」と報道され、テレビでも活動が紹介された頃にメンバーが厳しい顔で私の所に来て「もう会を抜ける。」と宣言しました。

「どうして？」と聞くと「グリーンラインへゴミを捨てとけば、冷蔵庫でも洗濯機でも愛する会と言うのが福山市に引き取らせるらしい。」と言う噂を聞いたというのです。

「丸山さん。あんたの理想論は聞き飽きた。現実は全然違うじゃないか。拾っても拾ってもゴミは減らない。それどころか逆にゴミを捨てに来る人間が増えている。こんな無駄な事をいつまでやるつもりなのか？それでもやりたいのなら、あんたが一人でやれば良い。」

わたしは一言も言葉をはさめませんでした。「ワシだってやめたい。」そう叫びたかったのを覚えています。

しかし、世の中には「捨てる神」ばかりではありませんでした。半年近くになる頃から、少しづつですが希望の光が見え始めました。

